

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4292000074		
法人名	社会福祉法人 あすか福祉会		
事業所名	高齢者グループホーム 和庵 1Fユニット		
所在地	長崎県対馬市厳原町国分1428番地1		
自己評価作成日	平成29年1月10日	評価結果市町村受理日	平成29年5月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	平成29年2月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご入居者の皆様においては、お一人お一人の心身の状態に応じて洗濯等、一緒に生活する中で、何かしらの役割を持ち、張り合いを持って生活していただけるよう働きかけを行うよう、スタッフ一同心がけながら職務にあたり、ご家族と医療機関の連携が図りやすいように訪問看護師の適切なアドバイスも頂きながら出来るだけ入院する事なく過ごせるように取り組んでいる。又、折々の季節に触れる事が出来るように行事計画を通して楽しんで頂けるように工夫をしている。地域の方との触れ合いは薄いですが、面会にお出での利用者様のご家族がご入居者様に声をかけて下さったりと新鮮な雰囲気を作って下さるのでとても有り難いです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム周辺に商業施設が位置し、利便性の高い地区に開設している。法人理念「尊厳」を基本に、本人本位の支援の実現に取り組んでいる。職員は、入居者の思いを引き出すための「会話力」「コミュニケーション能力」が高く、思いを数多く引き出ししており、本人にとっての「今」の大切さを重視し、思いの実現に取り組んでいる。オムツが嫌だという入居者の思いを大切に、トイレでの排泄を支援している。また、法人方針を踏まえ、ホームでは看取り支援への積極的な姿勢がある。今回、いづはら診療所との連携を図るために勉強会を開くことを提案し、事例発表を引き受け、ホーム職員の看取り支援の不安払拭のために動いている。家庭的で落ち着いた雰囲気の中で、入居者同士や職員との会話を楽しむ風景は、共同生活でありながら、家庭的である。穏やかな中に、入居者の笑顔の絶えないホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人全体の理念である「尊厳」を柱に、ご入居者お一人お一人が地域の一員として、その人らしく生活していただけるよう、日常生活の会話、生活の様子から自己決定できるように取り組んでいる。	玄関ホールには法人理念である「尊厳」の書が掲げてあり、訪問者の誰もがホームの姿勢を共有できる環境である。ホームでは入居者の今しかできないことに着目し、実現するよう支援しており、職員の勉強会のテーマが入居者主体の支援であるなど理念に沿っていることがわかる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を通して、地域包括支援センターや地区の区長さん、地元消防団員の皆さんと連携を図り、近隣住民との挨拶、病院受診時の知人との触れ合いを大切にしている。	町内から市報が届いており、毎回読んでいる入居者もいる。また、職員が回覧板を隣に回したり、洗濯物を干しながら世間話するなど、近所とは日常的に交流している。地域の祭りや地蔵盆に出掛けたり、みなと祭りを見学するなど交流の機会を大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご入居者の御家族や見学者、入居相談などの際には、個別に相談に応じてはいるが、まだ地域全体には活かしていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、ご利用者の生活の様子を報告しながら、他職種の方々から様々なご意見や施設への要望等を知ることが出来ており、運営・サービスに活かすことが出来ている。	2ヶ月に一度、規程のメンバーで開催している。施設体制や入居者の状況などを報告しており、メンバーとの意見交換の様子も議事録から確認できる。地域代表のメンバーから行事など地域の情報を得て、入居者の支援に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者をはじめ、地域包括センター職員や保護課担当者等とも、密に連絡を取り合いながら、連携を図ることが出来ている。	市担当課とは申請手続きや質疑など日頃から連絡を取っている。入居者によっては、担当課から連絡があったり、定期的な訪問もある。市主催の研修には勤務シフトを考慮しながら、できる限り参加している。また、運営推進会議でもアドバイスを得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	言葉の拘束、語尾の使い方、玄関は昼間は開錠、スタッフ一同周知徹底して取り組んでいる。	ホーム内ではセンサーマットの使用もなく、職員の見守りで対応している。ユニット会議で対応について検討する際に、管理者は拘束にならない支援方法を指導している。スピーチロックは職員間で注意し合い、会議の議題にあげるなど身体拘束のない支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	普段の言葉かけの中でもスピーチロックを行なっていないか等、お互いに注意しあいながらケアにあたっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護事業については現地点では活用していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その都度詳しく説明を行い、理解していただいた上で同意書に記名、捺印をしていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に御家族代表の方にも参加していただき、ご意見やご要望を聴く機会を設けている。	入居時に、意見相談窓口を説明している。毎月の便りや訪問時、電話などで意見や要望がないか尋ねている。また行事の招待状を家族へ送り、気軽に話せる機会を作っている。家族からの提案はユニット会議や申し送りで伝え、サービス向上に活かしている。家族の意見から玄関に意見箱の設置するなどの事例がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月研修会も兼ねてミーティングを開催し、スタッフからの気づきや提案を業務に反映させている。	職員はユニット会議や申し送り時に、要望や意見を出している。職員の気づきや提案は運営に取り入れている。また、内容によっては法人にも提案している。浴槽や汚物処理設備の改修依頼など事例がある。また、管理者は年1度、職員と個人面談し、資格取得や研修などの希望を把握して、働く意欲の向上に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な人事評価の中で、個人の頑張りが正に評価されるよう普段から目を配っている。又、自己評価を行うことで、自分自身を振り返るきっかけとなり、新たな目標設定が行なえると考え。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	まだまだ十分では無い為、今後の課題である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会もあり、情報交換を行なっている。スタッフにおいては他事業所との交流の機会は少なく今後の課題である。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前におは必ず、事前訪問を行い、ご本人のお困りごとや不安い感じておられること、要望など、じっくりお聴きすることで、少しでも安心していただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	前項同様に、ご家族とも入居前に必ずじっくりお話ををする機会をつくり、相談ごとや不安に感じておられること等をお聴きし、出来る限り気持ちに寄り添うことが出来るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	前項同様に、ご家族とも入居前に必ずじっくりお話ををする機会をつくり、相談ごとや不安に感じておられること等をお聴きし、出来る限り気持ちに寄り添うことが出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方の心身の状況を踏まえ、残存機能を十分に発揮していただきながら、生活の中で洗濯等、共同生活を営む一員として、役割を持って生活していただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた際には、日頃の様子をより細かくお伝えし、情報を共有し、外出等の協力を頂きながら、スタッフ・ご家族と一緒にご本人を支援していく体制を心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話・面会・自宅への外出等の支援は実施できているが、馴染みの人や場所についての関係継続の支援はまだまだ不足している。	入居時に本人・家族から聞き取り生活歴を作成し、職員は情報共有している。家族や知人の訪問や外出は自由である。法事やお寺参り、美容室などの外出は家族の協力を得ている。ドライブに元職場付近や馴染みの海岸線を含めることで、本人の会話が増える場面を作っている。ただし、新たに把握した生活歴の共有方法が統一していない。	利用開始以降に、新たに把握した入居者の生活歴や馴染みの人や場所について、全職員がいつでも確認でき支援に反映できるよう仕組みの構築を期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者の御家族や見学者、入居相談などの際には、個別に相談に応じてはいるが、まだ地域全体には活かしていない。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族の置かれている状況等踏まえて退所後も支援できるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の生活歴を大切にし、日課や趣味、好きな食べ物等もお聴きしながら、アセスメントをとるようにしている。ご本人からの聴き取りが困難な場合は、これまでの生活を良く知るご家族に情報提供していただいている。。	職員は、入居者一人ひとりの思いを把握するために、ゆっくりと本人のペースに合わせた会話を心がけている。意思疎通や会話が困難な場合も、入居者視点で対応している。会話の中から得た意向は、個人介護記録に記載し情報共有している。入居者の意向から、トイレ介助方法を検討し、職員は本人本位で支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人の生活歴を大切にし、日課や趣味、好きな食べ物等もお聴きしながら、アセスメントをとるようにしている。ご本人からの聴き取りが困難な場合は、これまでの生活を良く知るご家族に情報提供していただいている。。生活を良く知るご家族やケアマネジャーに情報提供していただいている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	事前のアセスメントは勿論であるが、日々体調や心身の状況は変化する為、スタッフ間で記録や申し送りを密に行い、気づきを大事に情報の共有を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	いろいろな視点からの気づきや提案を大事に、プランに反映するよう心がけている。	介護計画は、長期6ヶ月・短期3ヶ月の期間で支援目標を作成している。6ヶ月毎に評価し、ケアチェック表を作成し本人の現状を把握している。更新時には、家族の意見を反映しており、説明後同意を得ている。介護日誌で、支援内容の実践状況がわかるように記録している。ただし、記録方法が職員によって異なっている。	介護計画の支援内容の実践状況について、実践した・できなかったの判断基準及びその記録方法について、職員間で共有認識を図るとともに記録方法の統一を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別援助記録への日々の様子の記録は勿論の事、些細な気づきもスタッフ間で共有できるよう取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個人のニーズに対して出来る限りの対応を心がけてはいるが、サービスの多機能化とまでは至っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握、活用までには至っていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人。ご家族の意向を大事に、訪問看護・かかりつけ医との連携を図りながら、適切な医療を受ける事が出来ている。	ほとんどの入居者は県立対馬病院がかかりつけ医であり、他の診療所を受診する入居者もいる。受診は全て管理者が送迎しており、家族が同行する場合もある。結果は家族に報告しており、ホームでは個別に記録し職員間で情報共有している。調剤薬局と連携し、薬の情報を得る等、本人・家族が安心できるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	些細な気づきであっても、訪問看護師に相談し、連携と情報の共有を図りながら、早期発見。早期治療に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中も関係が途切れないよう可能な限り面会に行き、病状の把握や病院関係者との連携に努めている。医療機関との情報の共有・交換については対馬版ケアパスを活用している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の説明や意向の確認は勿論、病院受診結果等も細目に報告しながら、必要に応じてご家族にも同行受診していただき、主治医と一緒に話し合いを進めていくようにしている。	ホームは看取りに取り組む方針であり、書面を用い家族に説明し同意書に署名を得ている。ただし、これまでは医療機関との連携が困難であったため、事例がない。今後は職員への重度化・終末期に向けた支援の研修を行うこととしており、さらに管理者が提案し、対馬市で看取りについての勉強会を開催予定である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	経験、実践力はまだまだ身についてはいない。実践力がつくように努めていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	火災においては地元の消防団員の協力も得ながらの消防訓練を行い、地域との協力体制作りに努めている。自然災害訓練や、自主訓練は実施していない。	消防署立会いで夜間想定総合訓練を昨秋に実施しており、今年度末に2回目を予定している。入居者には喫煙者もいるため、自主検査チェック表を用いて、毎日点検し記録している。ただし、自主訓練や自然災害を想定した訓練はこれからであり、備蓄も期限切れで処分したままとなっている。	年2回の訓練に留まらず、自然災害も含めた避難訓練の実施が望まれる。また、備蓄は期限切れで処分した際には、早急な補充が待たれる。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いについての話し合いをスタッフミーティングでも議題に取り上げ、お互いに意識して改善するよう心がけている。ケアの内容についてもご利用者目線であるよう対応に努めている。	ホームでは、入居者について話す時には聞こえないよう工夫している。また、トイレ誘導や居室でのオムツ交換時は、ドアを閉めることを徹底しており、本人の羞恥心に配慮している。個人の記録類は所定の場所に保管し、職員は入社時に守秘義務の誓約書を提出している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段から話や相談がしやすい雰囲気作りに努め、本人の思いや希望を遠慮なく表現できるような関わりを意識している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方の日課やこれまでの生活スタイルを事前に把握した上で、そのペースを崩さないよう心がけている。又、その日の体調や気分をお聴きしながら支援をするよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日着用する洋服はご本人に選んで頂きながら、おしゃれが楽しめるよう支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	おやつレク、行事の際には一緒に作り、昔の得意料理の話を交えたり、嗜好食材・旬の食材を取り入れるよう心がけている。	1ヶ月ごとにユニットが交替で献立を立てている。調理はそれぞれのユニットで行い、リビングとキッチンは仕切りが無いため、調理の音や匂いが漂い、食事は入居者の楽しみとなっている。お節や雛祭のちらし寿司など行事に合った食事を提供しており、おやつ作りでは入居者も焼きそばやたこ焼きを作り、楽しめるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量を記録し把握に努めている。又、飲み物のレパートリーを増やし(緑茶・麦茶・コーヒー・ココア・紅茶・果汁・牛乳・スポーツ飲料水)個人の好みや体調に合わせると共に、美味しく念でいただけるよう工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	お一人お一人の口腔内の状態を把握した上で、朝・夕の口腔ケアを支援し、清潔保持に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の要求や、排泄間隔にあわせトイレ誘導を行い、出来るだけトイレで排泄が出来るように取り組んでいる。	職員は排便チェック表を基に支援状況を把握し、時間の間隔や本人の仕草からトイレに誘導している。ホームではトイレでの座位排泄を行っている。本人の意向から、オムツを使用せずポータブルトイレを活用した排泄習慣を優先した支援もある。職員は排泄支援について検討し、パッド類使用頻度やサイズの軽減に繋がった事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維や水分を十分に摂ることは心かけているが、運動への働きかけがまだまだ不十分で下剤でコントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週6日は入浴できるように浴室の準備を行っている。個人の体調や気分に応じて対応できている。入浴の時間帯については、選べるように時間の幅を持たせている。	日曜日以外の午後に入浴を準備している。1日4、5人を目安に入浴を支援している。拒否時は強制せず、時間や声掛けを替えた対応で、同性介助も可能である。車椅子や重度の入居者も、できる限り湯船に入れるよう入浴補助器具を揃えている。本人の希望の入浴剤やシャンプー類の使用もあり、入浴を楽しく過ごしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調や気分に合わせて自由に休んでいただいているが、夜間の睡眠に影響が出ないように配慮、働きかけも行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病気と服薬管理についてはスタッフ間で情報を共有し、新たな薬が追加された時は申し送りノートを活用しながら、服薬支援・病状観察を行うよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や嗜好品・レクリエーション・季節の行事等、随時行いながら、気分転換や楽しみとなるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物・美容室等、希望に沿って実施している。ご家族からの外出支援も協力していただいている。	季節のよい日は、ホーム周辺を散歩している。車椅子利用者も同様に外出を支援しており、気分転換に個別にドライブに出掛けている。また、外出希望は、できる限りその時に叶うよう対応している。対応できない時も、実現できるよう職員間で話し合い支援している。藤や桜など季節の風景を楽しむ外出を企画し、全入居者で外出を楽しんでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の能力、きぼうに応じ家族の意向を聴きながら自己管理をしておられる方もおられるが、管理が困難な方には預り金として、スタッフが管理の支援を行いながら、適宜買い物をお手伝いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠く離れたご家族や友人に電話をかける支援や、手紙の宛名の確認等、支援出来ている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の清潔の保持に努めている。その他明るさ・湿度にも気を配り、心地良く過ごせるように工夫している。又、季節の花を飾ったり、月毎に用の空間の飾りつけを変え、季節感を大切にしている。	リビングとキッチンが一体となった広い空間には、置のコーナーもある。ソファやテーブルセットを配し、気の合う入居者同士で歓談したり、のんびりとテレビを観るなど思い思いに寛いでいる。季節を感じることでできる装飾や花がある。トイレや浴室なども清掃が行き届き、快適な環境である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル・ソファなどを複数活用し、気の合う入居者同士や職員との関わり、一人でくつろぐ時間等が持てるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を可能な限り居室に持ち込んでいただくようにご家族にもご協力いただき、本人が穏やかに心地良く過ごせる居室になるように取り組んでいる。	入居者がホームに暮らしに馴染むように、居室への持込みは自由である。居室には、テレビやテーブル、鏡、写真など本人の馴染みの物を配し、個性のある空間となっている。職員が毎日、掃除機、モップで清掃し衛生的であり、全居室が広々としており、日差しが入り明るく心地よい空間である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	遣いやすく・わかりやすく・且つ安全にも配慮しながら、自立した生活が送れるよう配慮している。		